



生きものが他の生きものや環境などに体を似せることを擬態といいます。隠れたり、だましたりできて生存に有利なのでしょう。それにしてもどのようにしてそっくりなものが生まれるのか。進化の興味深いところです。

【ハナカマキリ】

Hymenopus coronatus

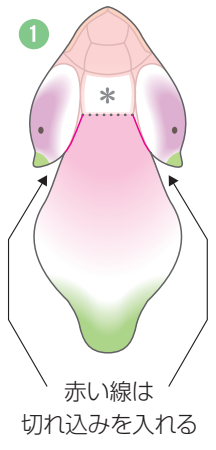


東南アジアに棲むハナカマキリは、ランなどの花に擬態します。花とまちがえて近寄ってくる昆虫をすばやく捉えるのです。これほど似ているのに、虫は形よりも紫外線の反射が花に似ていることに騙されること、若いカマキリは、ミツバチのフェロモンに似た物質を顎に持ち、においでも騙すことが分かってきました。花に紛れる擬態は、自分を狙う捕食者に見つかりやすい目立つ体色を隠すことに役立つのかもしれません。食う食われるの自然のしくみが生んだ昆虫と花の思いがけない一致を机の上で楽しみましょう。

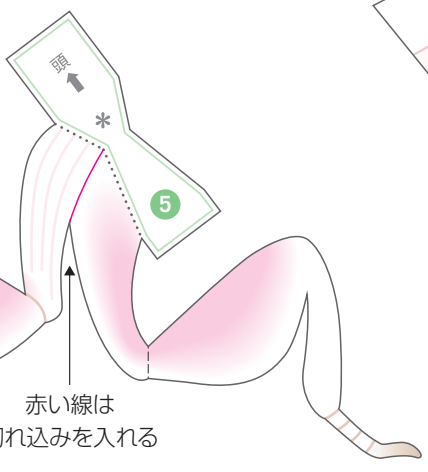
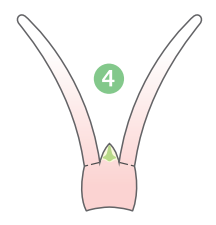
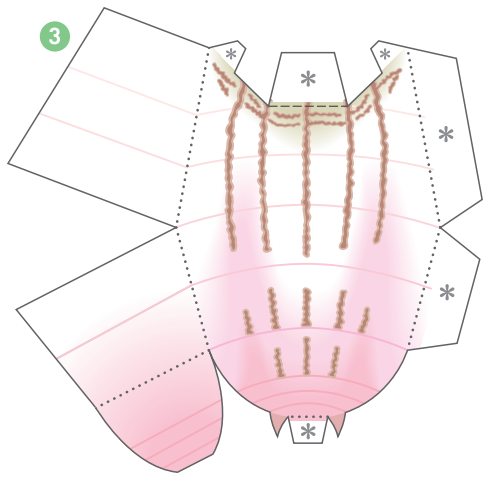
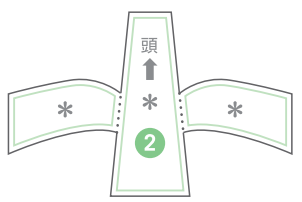
BRH

カード内面

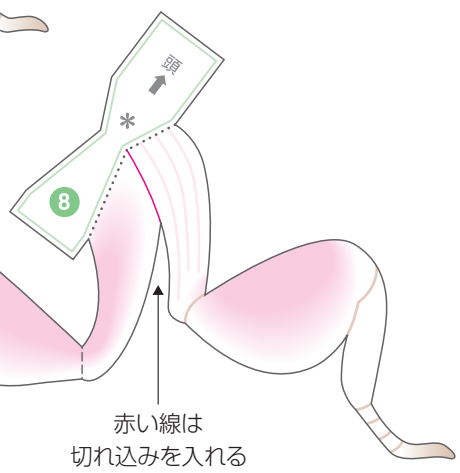
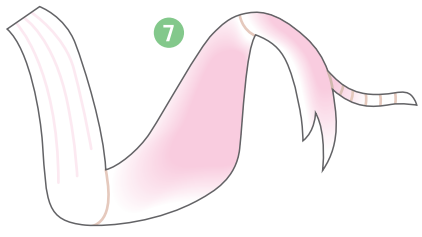
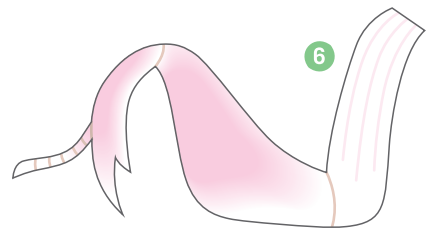




赤い線は
切れ込みを入れる



赤い線は
切れ込みを入れる



赤い線は
切れ込みを入れる

